

本紙読者の皆様へ 購読料払い込みのお願い

「THE WATCH&JEWELRY TODAY」のご愛読に感謝申し上げます。本紙は大正15年(1926年)創刊の業界最古の時計・宝飾・眼鏡の専門紙として、業界の健全な発展に資する紙面作りを行なっています。既に購読料(年間定期8,000円)をお払込みいただいております読者の皆様には引き続き購読をお願いするとともに、払い込み手続きをなされていない読者の皆様にはぜひご協力いただきますようお願い申し上げます。

購読料の払い込みは次の口座にお願いします。 口座名: 株式会社時計美術宝飾新聞社 振替口座: 東京00190-3-57579 取引銀行: みずほ銀行上野支店普通預金 口座番号: 1030608 株式会社時計美術宝飾新聞社

保険のご相談は(株)東時へ 本社: 03-5817-0353 西日本支社: 06-6252-4477

rosyblue More than Diamonds (株)ロージーブルー 〒110-0015 東京都台東区東上野1-10-6 ジュリーマート3F TEL 03-3836-7088 FAX 03-3836-7099 www.rosyblue.com

Quality FROM THE WORLD (株)時計美術宝飾新聞社 編集発行人 藤井正義 〒110-0015 東京都台東区東上野1-26-2 ジュエラーズタウン・オーラム5F TEL (03) 3833-1886 FAX (03) 3833-1717 http://www.e-tkb.com

THE WATCH & JEWELRY TODAY ウォッチ&ジュエリー トゥデイ W&J



国内外の宝飾業界トップ50名による大テアプカットで開幕

海外バイヤーが増えるも、国内に心配の声 日本のジュエリー文化の確立を

前年比101%の2万6181人が来場したIJT2018

中川千秋氏は「これほど盛大に開幕できることを、共同主催者として嬉しく思う。IJTは、日本の出展者にとっては日本にいな

りから海外と取引ができる絶好の機会。一方、来場者にとっては31カ国の出展社から、その場で買い付けができる日本最大の仕入れの場となっている。JJAはリード社と一緒にIJTを発展させ、世界のジュエリー産業における日本の地位向上に努めていくことを掲げた。

その後、国内団体はじめ、海外団体(イタリア、トルコ、インドネシア、リトアニア、ポルトガル、タイ、香港、中国)、国内外の有力宝飾店など50名による大テアプカットで開幕すると同時に、目当てのブースに駆け込み、仕入れを始める姿が昨年以上に見られ、幸先の良いスタートを切った。

4日間を通し、昨年以上の入場者と感じていたところ、主催者発表によると、今年のお客数は2万6181人(初日9097人、2日目7221人、3日目4653人、4日目5210人)となり、前年比101%、402人の増加となった。

昨年は、中国の旧正月と重ならないうようにと例年の水曜日～土曜日の日程を月曜日～水曜日へ変更していたが、海外バイヤーが減ったとの声が多かったが、今年は例年の水曜日～土曜日に戻し、402人増となった結果をどう捉え、次に繋げるかが重要となってくるだろう。

矢野経済研究所による市場規模予測では、今後微増が続くとされ、業者は少なかつたと感じた出展者、極めてのほとんどは減少傾向と捉えており、その中で

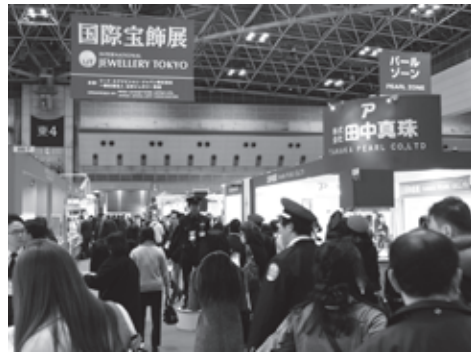
来場者数が増加に転じたことをポジティブに捉えることが必要ではないだろうか。そして、その来場者増減の分析を自社だけで行うのか、または全体で行っていくかを主催者に働きかけるのも選択肢のひとつ。年頭所感においては多くの団体が変革の年と捉え新しい何かを求めており、業界をリードする業界主催の最大のイベントとして、発信していくべきことは決まると考えられる。

新設された「ラグジュアリーゾーン」もそのひとつで、本来あるべき宝飾の姿を表すとの意見がこれまでに多かっただけに、期待は大きかったはずだが、これまでIJTあるいは業界を支えてきた大手の出展が少なかったことは残念としか言えない。しかし、東京貴宝からは、2.0カラット、3EX、Dカラー、フローレンスのダイヤモンド(ルース)の販売に繋がったとの嬉しいニュースも聞け、諦めずに展示会の在り方を模索し続けることも、宝飾産業あるいは国内小売店の活性化の原動力にもなり得る。

また、主催者による海外バイヤー招



4日間通し賑わったA会場



海外バイヤーの多かったB会場

評価できなくなってきたと、来場者もまた変化してきていると言えそう。更に心配されるのは、IJTに来なくなった小売店ではなく、去年まで来ていた小売店が来なくても良いと考えた時である。IJTに来場するべき情報やメリットなどを展示会として作り上げていくことも重要だ。

また、新規来場者などは、高額品を即決するほどの知識がないなど、宝飾品の魅力を理解していないこともあり得る。そのような人々を育てるのも産業としては必要なことであり、日本のジュエリー産業を世界へ発信していくことを掲げているならば、日本のジュエリー文化を確立していくことが必要ではないだろうか。

今年の国際宝飾展は、5月16日～18日の神戸国際宝飾展(IJK)、10月24日～26日の国際宝飾展秋(秋のIJT=パシフィック横浜)と続き、2019年

米朝の緊張はこのところ韓国と北朝鮮による平昌オリンピック参加問題で、一時的に緩和の兆が見えており、二月危機説が一時的に遠のいた感だ。世界の終末時計の針は、人類滅亡まで二分の所まで進んでいるが、今回の結果が良い方向のものになる事を願うものだ。北朝鮮は米本土へ原爆ミサイルの攻撃体制を確立するまで、核兵器開発をあきらめることはないであろう。一方、米朝は、北朝鮮の核武装は絶対に認めない。しかしながら、これは、第3次世界大戦で日本がおかれた国際的に孤立した立場と同じ状態になる。こうした中で、無謀な戦争に突き進んでしまったが、如何に回避するかが大きな課題だ。この点、北朝鮮の金正恩は、まともなことを考えていると思うがどうか? さて、今年もIJTが開かれた。

日本のジュエリー産業 明日の姿を考える 第90回

新しい時代の宝飾業界 オーラム企画 社長 本多忠頼

例えば、ガーネット、アメジスト、ペリドット、ターコイズ、クォーツなど、いずれも色彩は美しい。また貴石に比べて、半貴石は安価なので、サイズが大きめの利用出来るのは、利点である。宝石・貴金属ジュエリーとクセサリー・ジュエリーとを区分する一つの基準は、モノの価値の違いだと思ふ。この差は価格に直接的に表現される。以前から述べてきたように、ジュエリーは非日常的なものであるが、かつてバブル期において、そうでない時期もあったが、基本的にはジュエリー、中でも高額なもの、非日常的なものだ。価値の高さゆえに、一般性がなく、特別な存在に近づいてきたのだ。これをクセサリー・ジュエリーの普及を通じて、普及段階のレベルに引き上げたい。販路拡大の観点から、以前からジュエリーに使用される宝石のグレードについて、ジュエリーにはジェム・クォリティのものしか使用されていくべきとするのがまともな考え方だ。

のIJTは、1月23日(水)～26日(土)に開催される。

THE LAZARE DIAMOND The world's most beautiful diamond. WWW.LAZAREKAPLAN.CO.JP

村田宝飾 MURATA JEWELRY We love Jewelry

Only You. http://onlyyou-bridal.jp/ NAGAHORI

新作ジュエリーが毎月入荷 当社オリジナルジュエリー『NEW LINE』

for you forever UCHIHARA 株式会社 国太

I.Jey ROYAL-BARON ROYAL-BARONNE ZEN ROYAL 株式会社 伊東商店